

城西国際大学安房キャンパス閉鎖に伴う諸問題を解決するため、
学校法人城西大学と速やかに協議することを求める決議

城西国際大学安房キャンパス閉鎖については、令和2年8月28日の令和2年第3回市議会定例会開会日冒頭の市長報告により、全市民が知ることとなった。

同キャンパス内の観光学部は、悲願であった安房地域初となる大学学部の開設であり、定住人口増、地域経済振興、大学が有する知的財産の還元等、本市に計り知れない恩恵をもたらしてきた。巨額を投じた土地の提供から学生支援に至るまで、城西国際大学観光学部協力会、アパートオーナー会、鴨川市商工会をはじめ、官民一体となった支援を行いながら、良好な関係を構築してきたと認識している。

しかるに、学校法人城西大学（以下、「大学」という）の学部移転・キャンパス閉鎖という重大な決定が、事前に全く相談もなく突然発表されたことは、甚だ遺憾である。

さらに、本市議会が令和2年10月20日に提出した「城西国際大学観光学部の存続等を求める要望書」は、残念ながら未だに回答が得られていない。

令和3年1月12日、鴨川市は、当初の基本協定（平成17年2月2日締結）の大学による一方的な解除をやむなく受入れ、「城西国際大学安房キャンパス閉鎖に係る基本協定」を結んだ。その後、1年余が経過したが、大学は協定書に記された「協議」について誠意をもって行ってきたのか、疑問を呈さざるを得ない状況である。

加えて、建物の所有継続を視野に、大学から新たな利活用者の推薦・紹介はあったものの、それが具体化することはなかったこと、また、大学を中心に例えばサテライトオフィスなど教育施設以外の新たな活用を提案されることもなかったことを聞き、建物を含んだ活用について大学が前向きに取り組んできたとは思えない。

このままの状態で観光学部の移転期日を迎えることは、公に市民の代表機関たる市議会にとり、決して容認できるものではない。

本市はこれまで大学に対し、水田三喜男先生の大きな縁を大切に、協力・支援してきた歴史がある。本市議会も同じ思いで後押ししてきた。本市内にはキャンパス敷地以外にも、嶺岡林道には貴学が設置した歌碑や桜があり、曾呂地区の分教場跡には貴学の石碑が建立されている。さらに、今後も貴学との連携が望まれ、検討されるなど、観光学部は移転しても大学と地域の結びつきは変わることがない。

ゆえに、市民にとって観光学部移転・安房キャンパス閉鎖は衝撃であった。身を切られるような思いの市民が将来を思い描くためには、当該地の次なる具体的な活用案を早急に示すことが望ましい。本市議会はその思いで1年を待った。

本年3月31日に学部移転期日が迫る中、市民からは不安と失望の声が上がっている。市民の不安の払拭とキャンパス閉鎖に伴う地域経済への影響を最小限にとどめていくべく、本市議会は鴨川市において、下記の事項について努力することを強く求める。

記

1. 「城西国際大学安房キャンパス閉鎖に係る基本協定書」締結以降の経過について明らかにすること。
2. 当該地の本市に有益な活用について、「閉鎖に係る基本協定書」に則り、大学と速やかに協議を行い、観光学部移転期日（令和4年3月31日）までに、活用策を提案すること。
上記が不可能であれば、大学に更地返還を求めること。また、その場合は、土地活用について早急に検討すること。
3. 本件に関する経過について、今後とも速やかに市民への説明責任を果たすこと。

以上

令和4年3月4日

千葉県鴨川市議会